

聖霊降臨節第 8 主日礼拝説教要旨(7 月 12 日)

『主の愛のゆえに』 早川 真牧師

申命記 7:6-8

神が恋い慕うほどに心惹かれたイスラエルの民はどの民よりも貧弱でした。神は小さく貧しいものを心に留め、ご自分の豊かさをもって満たしてください。神が恋い慕うほどに心惹かれるのは、ご自分の豊かさをもって満たすことのできる存在、神ご自身によって満たされるように造られた私たち人間なのです。

旧約時代は、イスラエルの民という特定の民族が神の選びの民でした。しかしイエス・キリストが来られて、私たちが神の民となることを妨げるすべての壁を取り払ってくださいました。その結果、今や全ての人が神の選びの民、神の宝の民となることができるようになりました。

神は私たちが本当は弱く小さい者であることを良くご存じです。どれだけ強く大きな影響力を持つ人でもそれは神から与えられたものに過ぎず、神が取り去られればなくなります。反対にどれだけ弱く小さな者であっても神はその人をご自分の力で満たし大きく用いることがおできになります。

聖書の言葉には様々な言葉があります。安心できる言葉もあれば、厳しい言葉や、謎のような言葉、時に私たちを打ち砕くような言葉もあります。しかしそれらは全て私たちがキリストの光を輝かせるために語られている言葉です。全ては私たちがキリストに導かれるため、そして内におられるキリストを輝かせるために主の愛によって語られた言葉です。

その根底には、私達に奴隷の状態にいてほしくない、約束の地に入ってほしいという神様の愛があります。この主の言葉に導かれ、私たちの内にある宝を輝かせる生き方へと共に歩みを進めてまいりましょう。